

おひざのうえで 2023④

(副園長の子育て応援通信)

「夏の学びその①」

せんりひじり幼稚園 副園長 安達かえで



夏休みはいかがでしたか？ 歴史的に見ても暑すぎる夏でしたが、そんな中で子どもたちのために、あちこちと一緒に外出をされたママ・パパ・じいじ・ばあば、お疲れさまでした。きっと子どもの記憶のどこかに残っていて、見たこと聞いたこと体験したこと全てが、様々な感性に繋がり成長のエネルギーになっていくでしょう。

夏休みが始まって早々に横浜に住む娘から SOS の電話がかかってきました。電話の向こうで、4歳の孫が何やら大声でぐずっている様子…。「(夏休みが)始まったことやけど、もうムリやわ…。」とため息をつく娘。それでも、親子で煮詰まらないように、毎日のように誰かと遊ぶ約束をしてお出かけの予定を入れて頑張っている様子でした。ばあばは、すぐに駆け付けたい気持ちでしたが、ばあばも、新たな豊中市の取り組みの準備や研修やら学会発表やらで忙しい夏でした。

8月の初めに、娘家族と息子家族と一緒に白浜に2泊3日の旅行をしました。1歳・2歳・3歳・4歳の4人の孫の生活ペースに追われて、慌ただしい3日でしたが、孫と一緒にいるだけで面白くて幸せな時間でした。アドベンチャーワールドでは、席取り要員のじいじとばあばでしたが、イルカのショーを一緒に楽しむことができました。

暑すぎる日でしたので、「ソフトクリームをどうしても食べたい」という4歳の孫と、「すぐに溶けてベトベトになるからやめとき。かき氷にしたら？」と説得するパパママとすったもんだの挙句、「絶対ソフトクリームがいい！！ベトベトになってもいいから！！」と言い放った孫に押されてソフトクリームを買ったパパでした。受け取った瞬間からクリームがだらだらと溶けて腕に流れ落ちてきましたが、ベトベトになりながら黙々と食べていました。大人たちは「あ～あ、そのうちベトベトを嫌がって怒り出すだろうなあ」と思っで見守っていましたが、最後まで食べきった後、手を洗いに行っ満足げな笑顔で戻ってきました。自分の言葉の責任を自分で負えるようになって、4歳だなあと孫の成長を感じ笑えた出来事でした。

そして次の日、温泉の売店でまたソフトクリームを食べたいと言ったのですが、注文した後お店の人に「カップに入れてください。」と付け加えたのには大爆笑でした。経験から学んで大事ですね。



夏の間、様々な研修会に参加しました。昨年観た大好きな映画「こども会議」の監督の豪田トモさんのお話を聞く機会がありました。こども会議のトリセツとして、心理的安全性を高める3つの方法が、1. 相手の言葉を否定しない 2. 最後まで聞く 3. 反応がわかるように聞く とのこと。本当にどれも大切ですよね。特に3の反応がわかるように、興味深そうに、面白そうに頷いたり笑顔で聞くことで、更に話したくなる気持ちにさせることが大切です。子どもの心の顔が言葉を介して豊かな世界へ広がっていく…その場にいることが

できる私たちは幸せですね。講演が終わってから厚かましくツーショット写真を撮ってもらいました。子どもの心が読める感性豊かな監督でした。

また、聖護院八ッ橋総本店の専務取締役の鈴木加奈子さんのお話も聞く機会がありました。2011年に八ッ橋の新ブランド「nikiniki」を立ち上げ、江戸時代から続く八ッ橋を、これまでのお客様を取り残さないように昔ながらのものを大切にしながら緩やかに変化をさせ新しいものを別ブランドとして立ち上げるなどの取り組みをされています。聡明で品位ある美しい方ですが、内面から湧き出てくる前向きエネルギーに刺激を受けました。社員が考案したことをインスタなどで発信し、自分の考えが世に出る事でモチベーションに繋げていくというお話もあり、地元と人をとても大切にされています。共感できることばかりで、商品名につく「聖」はひじり学園と重なり、しかも米粉でできているので小麦アレルギーの子も安心して食べられると思います、思わず、生八ッ橋をカーニバルで販売させていただきたいと思いました。

また、京都の妙心寺 退蔵院 副住職の 松山大耕さまのお話も深く心に響きました。今、幸せを感じにくい時代であること。幸せとは、「自分がほしい物」分の「自分が得たもの」だそうです。ほしい物・得たい事が多ければ分母が大きくなり、その分幸せを感じにくいということになります。「足るを知る」という考え。ブータンの前国王がGDP(国内総生産)ではなくGNH(国民総幸福)を基本として国づくりをし、一時幸せの国ランキング上位であったのは、他国や他者との比較ではなく、雨風をしのげる家があって家族がいることで満ち足りた幸せを感じるという考え方だそうです。また、信仰心から輪廻転生を信じ、死を恐れないため不安がないことも挙げられています。

しかし日本は今、比較社会ですから、常に「星いくつ・・・」や「フォロワー何人・・・」などのスコアリングを意識してしまい、比較対象がないと判断できない人が増えていて自分なりの幸せを感じにくいことが生きにくさに繋がっているとのこと。また、日本の働きやすさのスコアは右肩上がりであるのに「働きがい」が落ちているのはSNSが流行りだしてからだそうです。SNSからは周りのいいところしか伝わってこないのも、自分と比較して劣等感を感じてしまうとのこと。そして、不安の種類には、・悩んでも仕方ないこと(自分の力が及ばないこと)・人に対する期待値が高すぎる事・自分に対する期待値が高すぎる事があり、これも情報量が多すぎるのが起因するので、期待値を上げすぎないように心掛け、今やれることを本気でやるのが不安を払拭する方法ではないかとのこと。

最後に、人間はチーターの様に早く走れず、ぞうのような力もないのになぜ繁栄してこられたのでしょうか。それは、「協力するからです」と言い切られました。食べ物を分け合い、人の心を読み、周りの空気も読む「利他の心」と「慈意」があることが、社会をよりよく保つための重要な鍵だとのこと。

幼児教育とは違う世界の方々のお話でしたが、共感する話ばかりで自分の立場や環境と重ね合わせて聞くことができ非常に刺激を受けました。

2学期は、様々な行事があり、子どもたちは心と力を合わせながら大きく育ちます。そのプロセスの中で、うまくいかないときも含めて経験を積みながら育ちます。そんな姿を肯定的に見守りながら、成長を支えていきたいですね。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

次号では、「夏の学びその②」として、研究と発表のアウトプットのお話をしますね。